実践提案 2

古典と現代のものの見方・考え方を比べ、新しい指導を考える会
――「枕草子」（二年）――

1 はじめに

現代生活においては季節感が薄れてきたとはいえ、中学生は四季の移り変わりを感じ取る鋭い感性を失ってはいない。しかし、豊かな感性を持ちながらも、それを表現する方法を十分に身につけてはいない。今回の実践では、平安時代に清少納言によって書かれた「枕草子」の冒頭部分（以下「春はあけぼの」と表記）と、現代作家・川上弘美の季節を描いたエッセイ『あるようなないような』（中央公論新社）を読み比べさせ、古典と現代の世界を比較し、ものの見方や考え方の違いを考えながら、登場人物や作者の思いなどを想像させたいと考えた。

また、随筆を書くことで、客観的な視点で人間の心の中や自然を見つめ、イメージ豊かに表現する力も身につくと考えた。古典の表現やものの見方・考え方をとらえ参考にすることは、表現を豊かで多様なものにする上でも大切である。自分が伝えたい事柄や心情が、相手に効果的に伝わるように描写を工夫できるよう、古典の文章と現代の文章を比較するのは意味がある。

2 指導上の工夫・ポイント（全5時間）

1時間目	音読
2時間目	現代語訳・表現
3時間目	季節の具体例の分類・四季を自分の感性で説明する
4時間目	「春はあけぼの」とエッセイを比較する
5時間目	四百字程度でエッセイを書いてみる

「春はあけぼの」は古典の代表的な作品で、指導する側もつい力が入り暗唱や解釈に時間をかけてしまう。しかし、今回は音読・語釈に深く入らないようにし、現代語訳も生徒が理解できる程度にとどめた。ただ、古典特有のリズムに慣れさせるために、「春はあけぼの」の原文の表現技法の体言止めや助詞の省略は丁寧に確認した。

「春はあけぼの」の季節の具体例は〈ワークシート1〉を使って整理させた。また、それぞれの季節を自分の具体的な表現で説明してみる〈ワークシート2〉も用意。それによって、四季に対する自分の感覚を確かめることができ、エッセイを書く上で表現をする練習にもなった。

「春はあけぼの」と現代のエッセイを比較するときは、比較する項目を整理して言葉や表現の工夫に着目させるようにした。

〈ワークシート3〉

川上弘美のエッセイは簡潔で、季節に対する現代人の感覚を上手に表現していて中学生にも分かりやすい。また、現代の季節に対する感性は、「春はあけぼの」の自然観と対照的でもある。エッセイを読んで「春はあけぼの」と比較する学習では、共通部分と相違部分を考えながらまとめることができた。表現技法については資料集などを使って確認するようにした。

川上弘美のエッセイは会話や人の手によって作られたものが多く登場する。また、気持ちを表現する場合、比較的否定的な表現が多いのに対して、「春はあけぼの」は、それが「をかし」「あわれ」など肯定的な表現であることに気がつく。「春はあけぼの」は、自然に焦点を当てて、自然への気持ちを表現する言葉が多様で、自然を楽しんでいるようにも感じる。生徒はそれぞれの筆者の視点に気づき、それぞれのものの見方や考え方を作品の表現を通して理解することができた。また古典特有の省略や短い文体など、自分が書く際、表現の参考とする部分に気づくことができた。

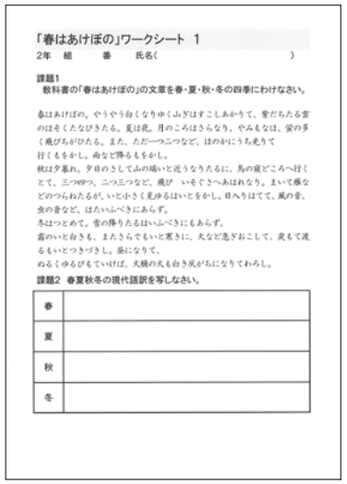
比較したあと、四百字程度で季節に関するエッセイを書かせた。〈ワークシート4〉学習した表現を使ったり、それぞれの感性で文章を書くことを楽しみながら、日ごろ書くことが苦手な生徒も抵抗なく書き始めることができた。さらに「春はあけぼの」で学んだ体言止めや、擬音語・擬態語なども使い、表現を工夫する生徒もみられた。また、できあがった他の生徒の作品も気になり、お互いに読み合ったり、発表し合ったりもしていた。

3 おわりに

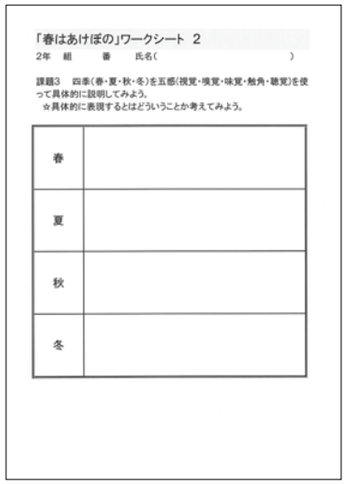
古典の作品を通して表現技法を学ぶことができるのは、生徒も意外だったようである。また、現代文との比較で古典の作品をより身近に感じさせた。

比較する現代の文章はさまざまなものを考えることができる。季節感がはっきり出るような、詩・短歌・俳句でもよい。書くテーマは季節だけでなく、「植物・動物・昆虫・心ときめくとき・両極端なもの・めったにないもの」などの「ものづくし」を考えさせる手法もおもしろいのではなかろうか。

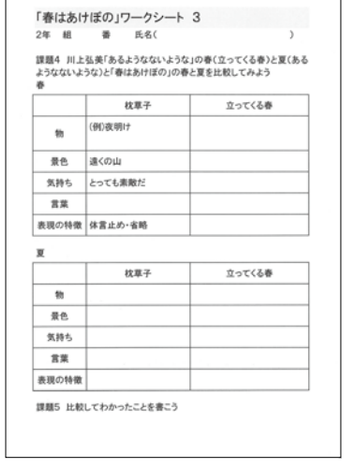
▼ワークシート1


「春はあけぼの」ワークシート 1
2年 組 番 氏名（ ）
課題1
教科書の「春はあけぼの」の文章を春・夏・秋・冬の四季にわけなさい。
春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎはすこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨などふるもをかし。
秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛ぶ いそぐさへあはれなり。まして雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。
冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず。霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。
課題2 春夏秋冬の現代語訳を写しなさい。
春	
夏	
秋	
冬	

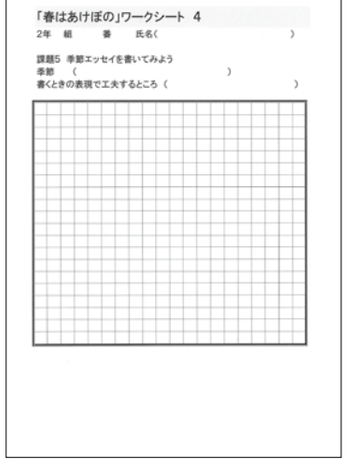
▼ワークシート2


「春はあけぼの」ワークシート 2
2年 組 番 氏名（ ）
課題3 四季（春・夏・秋・冬）を五感（視覚・嗅覚・味覚・触角・聴覚）を使って具体的に説明してみよう。
☆具体的に表現するとはどういうことか考えてみよう。
春	
夏	
秋	
冬	

▼ワークシート3


「春はあけぼの」ワークシート 3
2年 組 番 氏名（ ）
課題4 川上弘美「あるようなないような」の春（立ってくる春）と夏（あるようなないような）と「春はあけぼの」の春と夏を比較してみよう
春
	枕草子	立ってくる春
物	（例）夜明け	
景色	遠くの山	
気持ち	とっても素敵だ	
言葉		
表現の特徴	体言止め・省略	
夏
	枕草子	立ってくる春
物		
景色		
気持ち		
言葉		
表現の特徴		
課題5 比較してわかったことを書こう

▼ワークシート4


「春はあけぼの」ワークシート 4
2年 組 番 氏名（ ）
課題5 季節エッセイを書いてみよう
季節 （ ）
書くときの表現で工夫するところ（ ）